

# 平成29年度 学校自己評価システムシート (秋草学園高等学校)

目指す学校像	「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神を涵養し、「愛され信頼される女性」を育成する学校。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行、自然に親しむ心の醸成、道徳心の育成を通じ、建学の理念の具現化を図る。</li> <li>「学習の習慣化・授業の充実」を通じ主体的に学ぶ楽しさを身に付けさせる。</li> <li>生徒募集・広報活動への全員体制での取り組みと、生徒の進路希望を叶える指導を実現する。</li> <li>教職員の意識改革・学校改革を推進し、よりよい秋草学園の創造を図る。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者	4人
事務局(教職員)	3人

学校自己評価						
年度目標				29年度評価(3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>心を込めた挨拶をかかわせるようにするため、まず挨拶することを定着させる。</li> <li>清掃・整理整頓を徹底させ、さらに校内美化や草花への関心を高めさせる。</li> <li>建学の理念及び礼節・勤勉・協調の具現化をはかり、本校の特色が発揮できるように教育活動を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>心のこもった挨拶ができていますか。</li> <li>校内の美化や草花への関心の高さはどうか。</li> <li>建学の理念を理解し、そのことに基づく行動ができるか。</li> <li>愛校心が育っているか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎朝、教職員や生徒が校門に立ち、心を込めた挨拶をする。</li> <li>授業や集会などの始めと終わりにしっかりと挨拶をさせる。</li> <li>全員、体育着に着替えて清掃を行う。</li> <li>校内で花を育て鑑賞する。</li> <li>礼節・勤勉・協調の精神を常に訴える。</li> <li>式及び集会で学園歌の指導を徹底する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教職員が毎朝校門に立ち、生徒と元気に挨拶を交わしているか。</li> <li>挨拶が定着したか。</li> <li>清掃に全員で取り組んでいるか。</li> <li>常に花のある環境を整備しているか。</li> <li>教職員が三つの精神に基づいた指導を行っているか。</li> <li>学園歌を機会あるごとに歌唱しているか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全教職員・係生徒で取り組みができた。多くの生徒が元気な挨拶をしている。</li> <li>授業時の挨拶、集会での挨拶、また校内での会釈や挨拶も定着している。</li> <li>清掃の時間は係全員で清掃に取り組めた。</li> <li>校舎内は風紀厚生委員の生徒と係りの教員が、灌水などの花の手入れをしている。</li> <li>三つの精神は徐々に広まり、生徒の言動・生活態度に現われている。</li> <li>学園歌を通して、愛校心は着実に育っている。</li> </ol>	A
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の強化を行う。</li> <li>授業改善生徒に質の高い授業を提供する。</li> <li>生徒の自主性を育てる取り組みを行う。</li> <li>AL型授業を推進することにより、生徒に主体的に学ぶ楽しさを身につける。</li> <li>中途退学者の数を減らすようにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ベネッセのGTZを通して基礎力が定着しているか。</li> <li>授業態度・宿題の提出状況、定期考査により判断する。</li> <li>授業アンケートや外部評価を利用して判断する。</li> <li>生徒が授業に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>退学者数より判断する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>基礎学力講座を開講する。タブレットを使ったICT教育を推進する。</li> <li>授業研究旬間において、教科内・教科を超えての授業研究。また、研究会等を通して授業力を向上させる。</li> <li>生徒による授業評価を活用する。</li> <li>講習・補習を充実させる。</li> <li>部活動への積極的な参加を促す。</li> <li>日々の生活指導で生徒にきめ細かな対応をする。長期欠席者等には家庭との連絡を密にし、関係機関とも連携する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員の授業に対する取り組み状況、授業観察や面談、模試等より判断する。</li> <li>生徒による授業評価や教員間の授業研究・教科会を利用する。</li> <li>講習・補習への取り組み姿勢を観察する。</li> <li>生徒の取り組み状況を見極める。</li> <li>退学者数や欠席状況等より判断する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業については、コースにより授業態度等に違いが生じている。授業内容・進度等のチェックと改善の必要がある。</li> <li>約7割の生徒が授業には満足。AL型の授業等を展開し、ICT教育を推進した。</li> <li>学力不足の生徒を対象にOne Up講座を開講し、フォローしている。</li> <li>自主性が育っており、中心になっている生徒の成長の様子を行事を通してうかがえた。</li> <li>長期欠席者の家庭との連絡が取れないケースが多くなった。</li> <li>退学者は5人となり、昨年度(8人)より減少した。</li> </ol>	A
3	<ol style="list-style-type: none"> <li>塾や中学校訪問を強化し、オープンスクール・学校説明会・入試相談会への参加者を増やし、入学者増へと結びつける。</li> <li>進路実績を高め、生徒・保護者や中学生から期待と信頼を得られるようにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>本校へ来校する中学生数を増やす。次年度の入学者数を300人に近づける。</li> <li>国公立5人、GMARCH 10人以上、生徒の進路決定率を9割以上にする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>塾や中学校との連携を強化する。</li> <li>S部活動奨学生を新設する。</li> <li>来校する中学生や保護者に対して本校のおもてなしの心で本校の魅力伝える。</li> <li>授業を充実させ、学力向上を図り、入試方法の研究をすすめ、進路実績を高める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>本校への入学者数を300人にする。</li> <li>国公立 5人、早慶上理3人、GMARCH 15人、成成国武明学20人、日東駒専 20人の合格者を出す</li> <li>進路決定率を9割以上とする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>入学者は308人で、(昨年度増64) 幼保コース入学者が増えた。(昨年度増22)</li> <li>全教職員が入学者増に向け積極的に取り組む姿勢が伺われた。</li> <li>国公立大 4人(埼玉県立大1、滋賀大学1、釧路公立大学1、島根県立大学1)、GMARCH 5人(立教3・法政1・中央1)、成成国武明学3人(国1武2)日東駒専 10人(日2東4駒3専1)、看護医療系大学27人(日赤、杏林、埼玉医大他)であった。4大進学者127人(49%)、進学実績を向上させるための工夫をさらに図る。</li> <li>96%の進路決定率であった。短大との連携も含め、さらに内容を充実させたい。</li> <li>難関大学の合格に苦戦した。</li> </ol>	A
4	<ol style="list-style-type: none"> <li>魅力的な教育の実践を通して、「入れる学校から入りたい学校へ」の変貌を遂げる。</li> <li>人材育成や教員力向上に向け、研修を強化する。</li> <li>迅速に報告・連絡・相談を行い、円滑な学校運営を構築する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>本校の魅力的な教育を共通認識とし、語るができるか。</li> <li>授業研究・生徒指導・進路指導等に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>本校の魅力を外から評価されているか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教職員一人一人が学校改革に向けて主体的に取り組む心を醸成する。</li> <li>分掌・学年・個人からの学校改革の積極的な意見を取り入れる。</li> <li>分掌の部長や学年主任が職務内容を把握し、組織の成長を図る。</li> <li>学校改革に積極的に協力し、実現できる環境づくりに努める。</li> <li>授業研究、生活指導、進路指導などに積極的に取り組み生徒に還元する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>部長や主任が関係する事案を把握しており、管理職との連携がとれているか。</li> <li>組織の一員として、職務上の役割を果たしているか。</li> <li>職務への取り組み姿勢に積極性が見られるか。</li> <li>授業の質を高める教材研究ができていますか。生徒と向き合っているか。</li> <li>生活指導や進路指導の研究を深め、実践しているか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>報告・連絡・相談を徹底した。</li> <li>個人で仕事を抱えることが無いよう、組織としての機能を強化し仕事の配分など改善に取り組んだ。</li> <li>秋草学園に対する帰属意識が希薄にならないよう管理職は配慮する必要がある。</li> <li>業務内容の見直し、部活動指導の見直し等を行い、時間的余裕をもって研修・研鑽ができるようにし、校舎施設時間を20:00に設定した。</li> </ol>	A

学校関係者評価	
実施日	平成30年4月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①生徒一人一人が母校愛とプライドを持って卒業し、第一線で活躍できる社会人を目指して、ブランド力に繋がる評価を受けてほしい。	④マナーの第一歩である挨拶が、きちんとできていて気持ちよい。特に登下校時の正門前一礼挨拶は、教職員の指導のもと生徒たちが自行的に行っている姿が印象的である。また、一般来校者に対して笑顔で心を込めた挨拶を交わしてくれる生徒が大変多くなっている。
②校内整備では、花時計と多数のプランターが綺麗に整備されている。また、生徒の積極的な清掃の徹底により教室等も居心地良く過ごせる環境になっている。	⑤退学者の中には友人とのコミュニケーション不足によるものもあり、コミュニケーション能力を高める対策を図る。
③学校行事に参加する生徒たちの立ち振る舞いが徹底していて女性としての仕草が大変良い。また、来賓に対する言葉づかいや接遇についても先生方のきちんとした指導による「秋草の良い伝統」が受け継がれている。	⑥自己肯定感を高める方策を練る。
④マナーの第一歩である挨拶が、きちんとできていて気持ちよい。特に登下校時の正門前一礼挨拶は、教職員の指導のもと生徒たちが自的に行っている姿が印象的である。また、一般来校者に対して笑顔で心を込めた挨拶を交わしてくれる生徒が大変多くなっている。	⑦併設校(秋短・秋専)との連携を深める。
①学校をもっと活用して勉強したいという生徒が年々多くなっている。また、勉強スペースの施設を更に整備した結果、放課後等のチューター制度(個別指導)の利用率が更に上がっている。	⑧情報の共有化の徹底を図るように努める。
②コミュニケーションが難しい生徒に対しては、より一層の手厚い指導と家庭との連携を含めて積極的に実施して欲しい。	⑨互いの職務を理解し、その共有ができるように、緊密にコミュニケーションをとれるよう工夫する。
③学習に対して、タブレットを導入したICT教育とコミュニケーション能力を大切に目的別授業や人間力を高めるAL型授業の取り組みに積極的な教育指導にあたっている。また、SNS利用については、生徒同士のつぶやきや外部へのトラブルに巻き込まれないよう複数回の講習会を実施し、きめ細やかなツールの使い方を保護者も含めて実施して欲しい。	⑩変革の意義と方向性を共有し、組織で取り組めるよう努める。
④広報活動においては、各コースの魅力を最大限に活かした秋草らしいイベント等の成果により定員を超えたが、次年度も教職員一人一人が責任を持って定員の維持を肝に銘じて欲しい。	⑪業務の効率化をはかり、研修・研鑽できる時間を確保する。
⑤狭山市にありながら近くで遠いイメージであったが、狭山市駅からのスクールバスを新設することで中学校や塾を始めとした近隣地域への活性化にも繋がっている。	⑫秋草プライドの育成を図り、教職員・生徒がイキイキと活躍できる学園創りを推進する。
⑥教育デザインの一つである英語教育改革プログラムを先生方が研修をし、生徒と共に授業力向上に努めることは今後の国際化社会に必ず役立ってくると思う。	
⑦進学実績では、高レベル(国公立)の大学進学に対する進路指導の成果が出ている。また、将来のキャリアを意識した看護医療系への進学が増えているため、愛される女性像を目指して欲しい。更に、理系や工学系なども含めたコースの垣根を越えた進路指導の充実も図って欲しい。	
⑧生徒との時間を少しでも多くとるため、業務の見直しを図り生徒の指導に時間を注ぐようにして欲しい。	
⑨教職員の接し方や声掛けにより「愛され信頼される女性」の育成に通じるコミュニケーション能力が生徒一人一人に現れている。	
⑩教職員の勤務時間の軽減が必要とされる中、オーバーワークにならないよう、学校の施設時間の徹底を図って欲しい。	
⑪部活動指導員及びコーチは、学校の状況を良く理解した上で生徒への言動や指導をして欲しい。また、生徒の新たな創造性を引き出すため、休息日はもちろんのことリフレッシュさせる時間も作って欲しい。	